

---

# バカと転生者と召喚システム

FORCE

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと転生者と召喚システム

### 【Nコード】

N5292Z

### 【作者名】

FORCE

### 【あらすじ】

『バカとテストと召喚獣』に転生した『斬沢 拓哉』が原作キャラたちと楽しく？学校ライフを送っていきます。・・・多分

## プロローグ

俺は『斬沢拓哉<sup>きざわたくや</sup>』。今はともありえないことが目の前で起こっている。

それは、真っ白な部屋に汚いひげを生やした自称神様がいることだった。

「それで俺はその神様の間違いでここに来てしまった。ということか？」

「恥ずかしいことじゃがそうなるのう」

俺はここに来る前にお魚加えた野良猫がトラックに轢かれそうになったところを俺が飛び込んで、結果、お魚加えた野良猫が生き残り・

・・・俺が死んだ

そして現在に至るそうだ。それより

「俺はこの後どうなるんだ？自称神様」

「わしを自称神様と言っんじゃないぞ！・・・まずは謝罪として生き返させてやろう」

マジで！？

「俺を生き返させてくれるんですか！？」

そうしたら俺はいろんな人に拝められるんだろうな

トラックに轢かれても死ななかった人ゝみたいな

「と言っても、お主が生き返ってもお主の体はもう焼かれておるぞ」

自称神様はどつかから取り出したテレビを俺に見せる  
テレビに映っているのは火葬場で俺が焼かれていて、両親が泣いて  
いる場面だった。

「くッ！もうここまで王手が指してあるとは……こいつら  
やりおる」

「お主が野良猫の代わりに死ぬのが悪いぞ！？」

もしかして俺が悪いのか？自称神様がそう仕向けたくせに！

「それじゃあ俺はどこに行けばいいんだ？」

「とにかくじゃ、お主が行くのは、『バカとテストと召喚獣』に行  
って貰うのじゃ」

バカテストか……。原作は一応知っているけど……。本  
当に大丈夫なのか？

「神様とやらは俺にその世界で生きていけというのか？というより  
生きていけるのか？」

「お主ならいけるじゃろうな？」

ちよつと待つんだ！そこで疑問詞はおかしい！！ということは俺は  
原作キャラに会わなくてお陀仏になってしまう確立があるというこ  
となのか！？

「大丈夫じゃそこまで心配はしなくていいのじゃ」

自称神様いわく大丈夫らしいんだが不安でたまらない……。っ  
つとなると俺は転生者になるのか……

「一応じゃが能力はどうするかのう？お主に決めさせようではないか」

なんて上から目線な発言なんだ！！

一応転生をしてくれると言っているがそれじゃなかったら俺は本気で殴りかかっていたところだ。

「神様にお任せするよ」

「無欲な奴じゃのう・・・他の奴は『頭を良くしてほしい』とか『イケメンにしてほしい』じゃとか『金持ちの家に住みたい』とか言ってくるんじゃないかな・・・」

「それじゃそんなことを言っただけじゃないのか？」

「いや神様として頼ってほしいのじゃが・・・まあいいのじゃそれでは行くかのう」

えっ！それは今から転生するって言うこと？横暴すぎるよ！

「ちょっと待つんだ！俺の気持ちの整理がまだ整っていない！」

「大丈夫じゃ転生するときはこのボタンを押してからじゃ」

自称神様はポケットから変なボタンを取り出した。

ということは俺の命はあの自称神様の手の中つということなのか！？

「そろそろワシの名前から『自称』を消してほしいんじゃないか？」

あれ？俺の心の中読める？  
自称・・・じゃなくて神様？

「あらためてバカテスに行ってこいなんじゃない！」

神様はボタンを押すと俺の足場がなくなっていた。  
神様がこんなことをやって良いのか？

「神様だからできたこと」

「てめえ！楽しんでるだろー」

そうその会話が俺が穴に落ちるまでの会話だった。

「うわあああああああ！」

えーと・・・これは何て言うんだっけ？

そうであれだ！

「理不尽だ~~~~~！！」

ということ、高校生になって二度目の春がやってきた。  
もちろん舞台は文月学園だ。

「なんて長かったんだ・・・今までの生活・・・」

今までを思い起こすといろんなことがあった。

さすがに0歳からやっていくのは長かった。というより長すぎじゃないのか！？

「まったく・・・神様は能力について説明は無いしどうやって生き

て行けばいいのかわからんようになってきたぞ」

俺が一人でブツブツいつているなか文月学園の校門が見えた。  
もちろんその校門には・・・

「斬沢、遅刻だぞ」

そこには拷問が待っていた・・・

じゃなくて西村という名のオマージュに包まれた鉄人だった。

「そこで嫌な顔をするな！・・・・・・たく受け取れ」  
「はい」

俺は鉄人・・・

「斬沢、それ以上あだ名を言うとは補習だぞ」

「あれ？俺の心の中を読み取れるんですか？」

「ということは俺をあだ名で呼んでいたわけだな？」

あつ！はめられた！

じゃなくて俺はにしむr・・・鉄人から振り分け試験の手紙をもら  
った。

もちろんラブレターではない。むしろラブレターだったら失神して  
死んでいるところだ。

「斬沢、お前は本来Cクラスには行けただろうが -」

俺は振り分け試験の結果を見るため開けてみると・・・・・・・・

「何でお前は振り分け試験の日にちを一日間違えたんだ？」

Fという大きな文字が俺を迎えてくれた。



## プロローグ（後書き）

この小説で2作目になってしまいました！

こっちの『バカと転生者と召喚システム』ほうが良いという意見が多いのならば、最初に書いた小説は多分更新しませんかもですね。作者的にはこっちのほうがやりやすいですね。

まあがんばっていきますので、よろしく願います！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5292z/>

---

バカと転生者と召喚システム

2011年12月17日22時47分発行